

生体界面環境の定義

「身体はどんな環境の中に存在しているのか」という一つの問いから派生している。環境を定義する

そうです。ここはかなり重要です。

「身体はどんな環境の中に存在しているのか？」と問うと、単なる生活環境ではありません。

BIFC の文脈では、まずこう定義するのが一番きれいです。

身体が存在する「環境」

身体環境とは、身体と外界との境界に形成される、生体界面環境である。

さらに一段具体化すると、

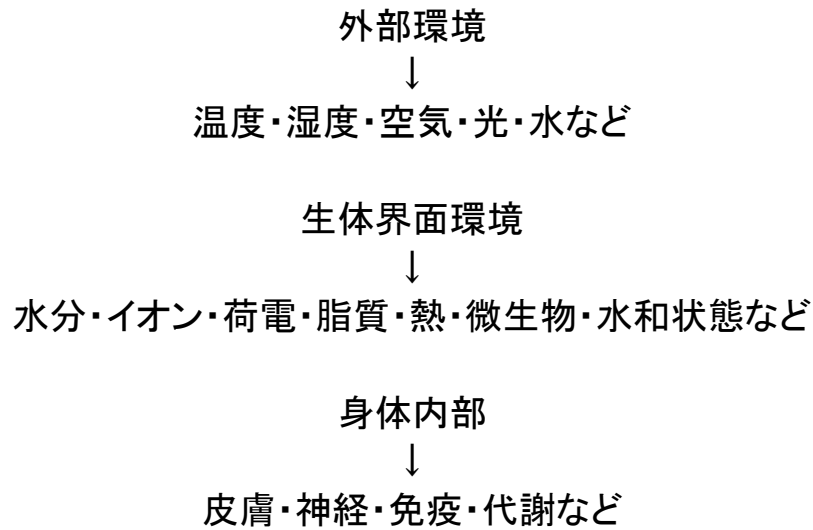
身体環境＝身体表面に接して存在する水・イオン・荷電・脂質・熱・気体・微生物などの状態と、それらが移動・交換する環境

です。

ここがポイントです。

「空気」「温度」「湿度」といった従来の環境概念より、一段、身体側に寄った環境です。

つまり3層になる



そして BIFC が直接設計対象にするのは、身体内部ではなく、その直前にある「生体界面環境」。

だから、

身体を変えるのではなく、身体が存在している生体界面環境を整える。

という一本の思想になります。

そして、ここから以前の話が全部つながります。

- スキンケア → 皮膚表面の界面環境
- 洗浄 → 界面環境を一度リセットする操作
- クーラー → 身体を取り巻く熱・水分環境の制御
- スキンシップ → 皮膚を介した外部環境からの入力
- BIFC → 生体界面環境そのものを設計・制御する技術
- 心身の安定 → その結果として、身体が安定しやすい環境を支える

なので、さらに核心まで圧縮すると、

「身体は何をしているか」ではなく、「身体は何の中に存在しているか」を見る。

これが「身体環境設計」の出発点になります。

そして、この定義なら

「身体環境設計調整技術」より

「生体界面環境設計技術」へ寄せた方が、

BIFC の独自性がかなり明確になります。